科目名	スピーチ	科目分類	■専門科目群　□総合科目群		
			経済学科	□必修　■選択	
			法律・国際観光	□必修　■選択	
英文表記	Speech	開講年次	□１年　■２年　□３年　□４年		
		開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中		
ふりがな	わたひき　かおる	実務家教員担当科目	○	修得単位	２単位
担当者名	綿引　かおる	実施方法	■対面のみ　□遠隔のみ □対面・遠隔併用		

授業のテーマ	話すこと・スピーチの技能向上と、思考力・表現力の向上
到達目標	以下の事項ができるようになることを目標とします。 ・自分の考えや意見を、臆せず理路整然と効果的に伝えることができるようになる。 ・様々なテーマのスピーチについて内容を準備して発表に臨み、思考力、表現力などを向上させる。 ・他の学生の発表を聴いて様々な考え方や表現方法や価値観があることを理解し、自己の表現方法の向上につなげるとともに互いを認め合うことができるようになる。
授業概要	自己表現やコミュニケーションに不可欠な「話すこと・スピーチ」の技能向上を図ります。 話し方やスピーチに必要な要素、方法などについて学んだ後、実際に会話・スピーチ・ディスカッションを行います。 発表はその都度ビデオ撮影し、多角的・客観的に確認して、技能向上につなげます。

授業計画	
第１回	話してみよう　（１分スピーチに挑戦）
第２回	情報や意見の伝え方　（情報や意見を伝えるために必要な要素を学ぶ）
第３回	発声・発音　（発声実技）
第４回	言葉遣い　（正しく分かりやすい言葉遣いを学ぶ）
第５回	表現実習　（与えられたテーマについて表現し伝える）
第６回	自分の経験に関するスピーチ①　（作成）
第７回	自分の経験に関するスピーチ②　（第６回で作成したものを発表する。ビデオ撮影し、発表後に再生）
第８回	時事問題に関するスピーチ①　（作成）
第９回	時事問題に関するスピーチ②　（第８回で作成したものを発表する。ビデオ撮影し、発表後に再生）
第10回	インタビュー①　（話すことと聴くことの実習）
第11回	インタビュー②　（第１０回で相手から聴き出した内容をまとめて発表。ビデオ撮影し、発表後に再生）
第12回	ディスカッション①　（与えられたテーマについてグループ内で話し合う）
第13回	ディスカッション②　（第１２回で話し合った結果を発表する）
第14回	課題スピーチ発表準備　（作成）
第15回	課題スピーチ発表　（第１４回で作成したものを発表する。ビデオ撮影し、発表後に再生）
第16回	定期試験

授業時間外の学習	世の中の出来事に関心を持ち、ニュースを見聞きするなどして、それについて自分はどう思うかを必ず考えること。 講義時に話（１分スピーチ）ができるよう話題を見つけておくこと（身近な事柄でも構いません）。 （１日１０分程度　＝　１週につき１時間程度）
履修条件 受講のルール	発表や話す機会が毎回あるので、不慣れ・苦手でも構わないので教場で発表することに真摯に臨むこと。 受講時、発表時は、マスク着用とします(※令和３年４月現在。)

テキスト	プリントを配布
参考文献・資料	プリントを配布
成績評価の方法	第１５回の課題スピーチ発表（５０％）・第１６回の筆記試験（５０％） 上記評価項目をもとにして総合的に判断します。 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、 試験を受けることができません。 出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。
オフィスアワー	非常勤のため受講者にはメールなどで対応します。 メールアドレスは講義時に伝えます。
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	１９９２年～２００７年、秋田テレビ株式会社にアナウンサーとして勤務。報道番組、情報番組を担当。フジテレビ「めざましテレビ」リポーター功労賞受賞。実務のなかで修得した、話し方・アナウンス・スピーチの技法や、人前で話す心構えなども伝えていきます。
学生へのメッセージ	話すことは、学習や経験を積むことでどんどん技能向上します。 公的に話す場合はもちろん、普段の生活でも、話す力を身につけておくことは必要です。 今の自分のためにも、将来の自分のためにも、積極的に受講してください。